



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

平成30年度 まち・ひと・しごと創生

高知イノベーションシステム 報告書



高知大学
Kochi University

はじめに

平成25年度から始まった文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（COC）において、「高知大学インサイド・コミュニティ・システム（KICS）化事業」を実施してきました。県内7ブロックに設置された高知県産業振興推進本部との連携を密接にし、高知県と高知大学とが一堂に会する形で設置された『高知県地域社会連携推進本部』のもとに、県内全域の産業を含む地域振興に取り組んできました。東西に広い県内をカバーする、UBC：高知大学地域コーディネーター教員4名が常駐するサテライトオフィス、産業振興推進地域本部に設置し、地域課題の抽出と解決に向き合ってきました。

その取り組みに加えて、平成27年度からは、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）に高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校との連携を強化する形で、「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」がスタートして4年が経過しました。本事業の推進のために、参加高等教育機関および高知県、土佐経済同友会、高知県中小企業家同友会、高知県工業会、高知県経営者協会が一堂に会する『大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議』を設置し、学生の地元就職率を高めると同時に、雇用創出のための様々な取り組みを実施してきました。

なかでも、学生の地域理解と愛着心を育てることで、地域で活躍する人材（ローカル・イノベーター）を輩出していこうとする地方創生推進士の育成では、経営者、自治体トップ、行政機関の皆様のご協力でインターンシップでの学びを深めるようなプログラムを経て、60名を超える地方創生推進士が誕生しました。

また、雇用創出事業のひとつである「こうち観光カレッジ」では、観光カリスマの山田桂一郎氏からマーケティングとマネジメントの視点から基調講演をいただくといった累計52時間の学びを受けることで、観光を中核的に担う人材が育ち、修了生ネットワークのなかから、修了生同士で観光関連企業をおこす事例も出てきました。

COC/COC+の活動を通じて実現した地域連携のプラットフォームを活用しながら、今後も地方創生に向けた大学の役割を果たしていきたいと思っております。

これからも、活発な協働を基盤に、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

国立大学法人 高知大学
副学長（地域連携・広報担当）
まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム
事業責任者

受田 浩之



目次

はじめに

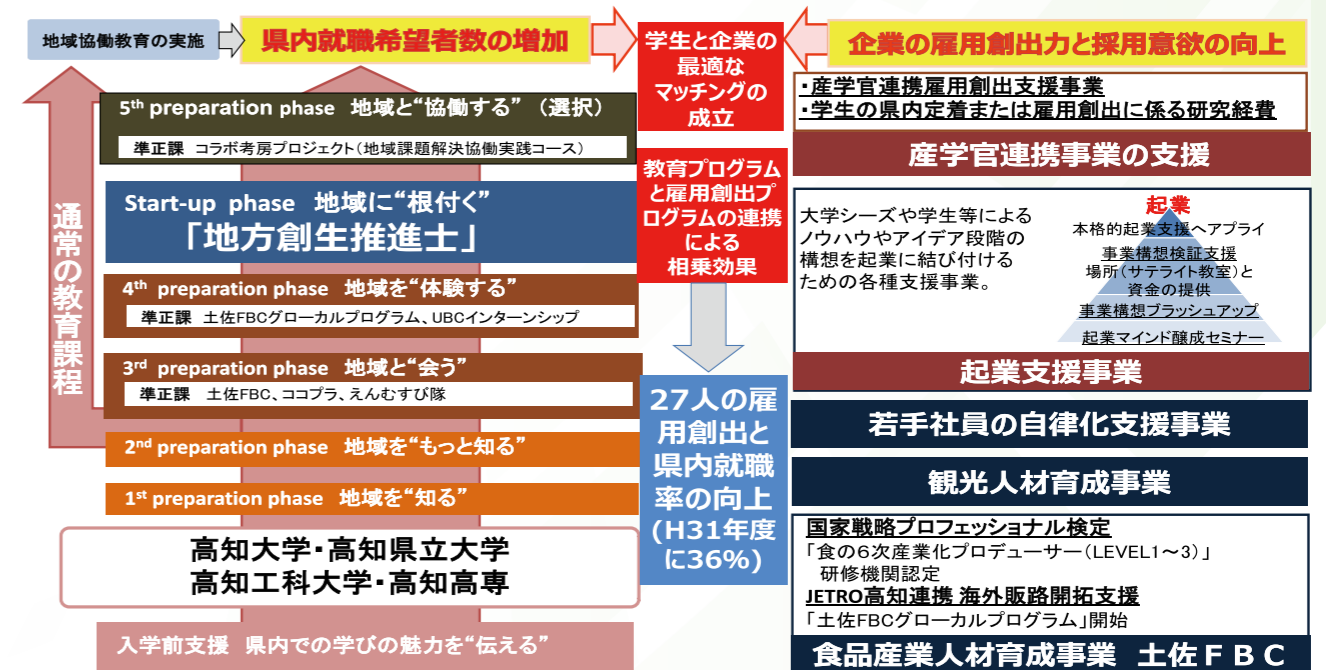
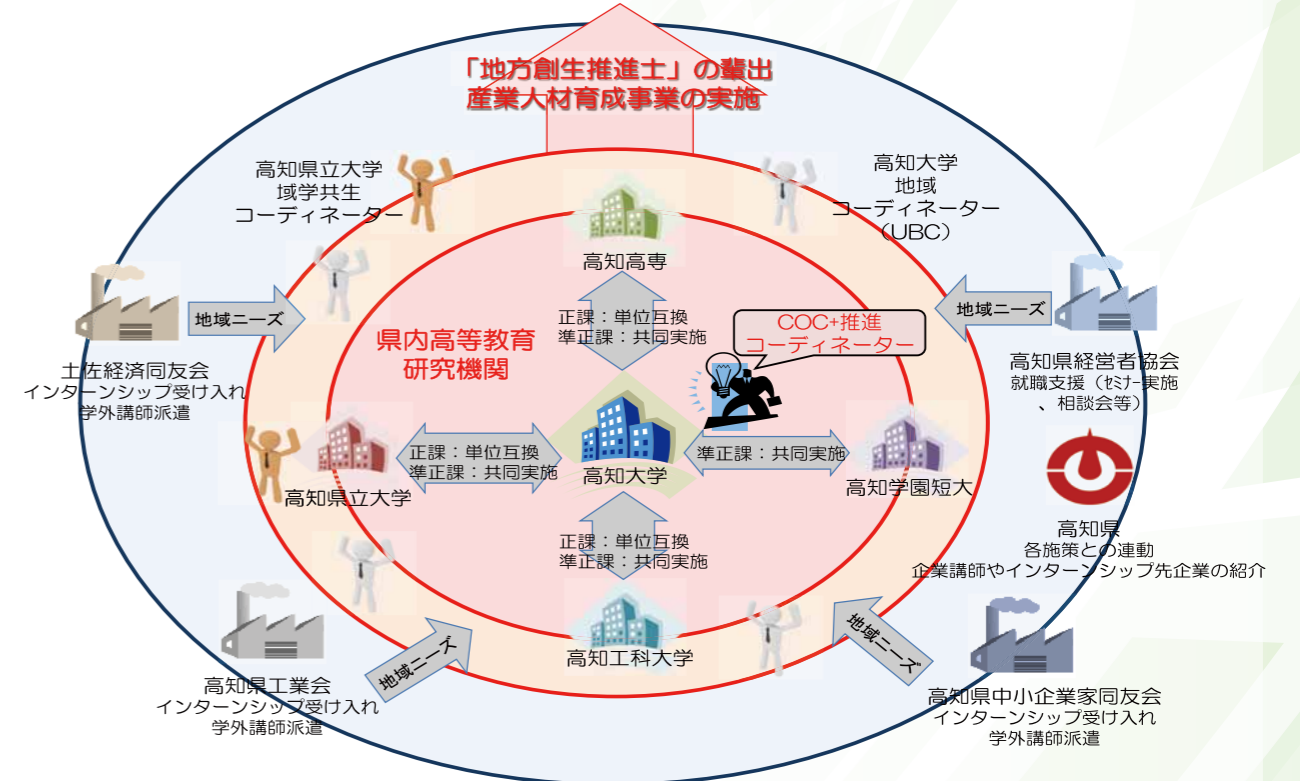
まち・ひと・しごと創生	高知イノベーションシステムの概要	4
事業実施体制	1 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部	6
	2 教育プログラム開発委員会	7
	3 組織体制	8
事業活動報告	1 地方創生推進士の活動	9
	2 県内就職率向上	11
	①えんむすび隊	11
	②土佐FBC部分受講	13
	③社長インターンシップ	15
	④高知市長インターンシップ	16
	⑤高知財務事務所長インターンシップ	16
	⑥高知行政監視行政相談センターインターンシップ	16
	⑦UBCインターンシップ	17
	⑧コラボ考房プロジェクト	18
	3 雇用創出	20
	①学生の県内定着または雇用創出に係る研究の推進	20
	②食品産業人材育成事業	21
	③観光人材育成事業	24
	④起業支援事業	27
	4 全国ネットワーク化事業 平成30年度COC/COC+全国シンポジウム	28
	5 第3回全国COC+推進コーディネーター会議	30
参加大学活動状況	1 高知県立大学	31
	2 高知工科大学	33
	3 高知工業高等専門学校	36
評価	1 外部評価	38

まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステムの概要

中小零細企業が大多数を占める高知県では、学生は県内企業の事業内容や独自技術に対する知識が無く、教育機会も少ない。また、産業基盤が脆弱で有効求人倍率が低く、学生の就職先は県外が中心である。この動きに歯止めをかけるべく、学生が地域を“知り”、地域と“会い”、仕事を“体験し”、“協働する”一連のプログラムを創出し、地域に対する深い理解と愛情を持った学生「地方創生推進士」を育成する。さらに、企業の人材育成と産学官連携を促進するプログラムを構築することで雇用創出力と採用意欲を高めて、県全体の産業振興にも貢献する。両プログラムを連動させることで、学生に優れた社会教育機会を提供すると共に、「地方創生推進士」の県内企業との適切なマッチングを図る。

本事業を県内全ての大学等が結集して実行することで、「しごと」を創り、「ひと」を育て、「まち」の持続的発展を担保する、高知型のソーシャルイノベーションが創出される。

事業協働地域への就職率向上・企業等の雇用創出支援



卒業後には地域に定着し、地域の中核人材として活躍

分類	代表的科目例	準正課例
第4phase	プロジェクトマネジメント演習 事業企画プロジェクト実習	社長インターンシップ UBCインターンシップ
第3phase	地域理解実習 地域協働企画立案実習	土佐FBC部分講義 えんむすび隊
第2phase	地域組織論 地域資源管理論	
第1phase	課題探究実践セミナー 高知の中小企業を知る 地域協働論	

1 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部

大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部の事業運営として、平成30年度は、大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議を3回開催し、県内高等教育機関、高知県及び地域産業界と「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」の事業運営について協議を行いました。

● 第1回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議

【開催日時】平成30年10月31日(水) 9:30~11:15

- 【主 議 題】
- 地方創生推進士に関する要項の一部改正について
 - 平成30年度前期「地方創生推進士」の認証について
 - 本事業の補助期間(H27~H31)終了後の取り組みについて
 - 平成30年度教育プログラム開発委員会(第1回~第2回)報告
 - 平成30年度外部評価委員会報告
 - 平成30年度事業実施状況報告
 - 平成30年度フォローアップ評価結果報告



● 第2回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議(メール会議)

【開催日時】平成31年2月22日(金)~平成31年2月26日(火)

- 【主 議 題】 ● 将来構想検討WG要項の制定について

● 第3回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議

【開催日時】平成31年3月14日(木) 13:30~15:00

- 【主 議 題】
- 平成30年度後期「地方創生推進士」の認証について
 - 平成30年度事業実績について
 - 平成31年度事業計画について
 - 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部要項の一部改正について
 - 教育プログラム開発委員会要項の一部改正について
 - 大学以外の事業協働機関による事業への満足度調査について
 - 平成30年度教育プログラム開発委員会(第2回~第4回)について
 - 平成30年度COC/COC+全国シンポジウムについて
 - 将来構想検討WGについて



大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議委員名簿

平成30年4月1日現在

機 関 名	役 職 等	氏 名
高知大学	次世代地域創造センター長	受田 浩之
高知県立大学	地域教育研究センター長	清原 泰治
高知工科大学	地域連携副機構長	浜田 正彦
高知工業高等専門学校	地域連携センター長	宮田 剛
高知学園短期大学	教務部長	吉村 斉
高知県	産業振興推進部長	井上 浩之
高知県	商工労働部長	近藤 雅宏
土佐経済同友会	副代表幹事	佐竹 新市
高知県中小企業家同友会	代表理事	大石 真司
高知県工業会	常務理事・事務局長	西内 豊
高知県経営者協会	事務局長	芝 一純

2 教育プログラム開発委員会

平成30年度は、教育プログラム開発委員会を4回開催し、地方創生推進士科目の充実・整備を行い、地方創生推進士の育成に取り組みました。その結果、参加校である高知工業高等専門学校の学生を含み本年度のみで、39名の「地方創生推進士」が誕生しました。

● 第1回 教育プログラム開発委員会(メール会議)

【開催日時】平成30年4月12日(木)~4月16日(月)

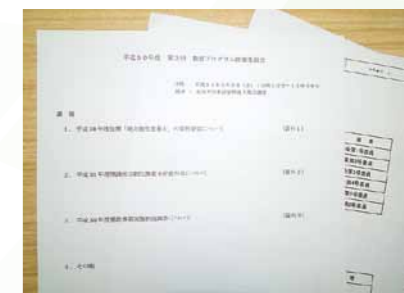
- 【主 議 題】 ● 平成30年度開講
高知県立大学地方創生推進士育成科目について



● 第2回 教育プログラム開発委員会

【開催日時】平成30年10月11日(木) 13:30~14:15

- 【主 議 題】 ● 「地方創生推進士認証申請手続について」の改正について
- 平成30年度前期「地方創生推進士」の資格審査について
 - 平成30年度補助事業実施状況報告について
 - 平成30年度フォローアップについて
 - 平成30年度開講地方創生推進士育成科目について



● 第3回 教育プログラム開発委員会

【開催日時】平成31年3月6日(水) 10:30~12:00

- 【主 議 題】 ● 平成30年度後期「地方創生推進士」の資格審査について
- 平成31年度開講地方創生推進士育成科目について
 - 平成30年度補助事業実施状況報告について

● 第4回 教育プログラム開発委員会(メール会議)

【開催日時】平成31年3月8日(金)~平成31年3月11日(月)

- 【議 題】 ● 平成31年度開講 高知県立大学地方創生推進士育成科目について

教育プログラム開発委員会委員名簿

平成30年4月1日現在

機 関 名	役 職 等	氏 名	備 考
高知大学	理事(教育・国際担当)	奥田 一雄	第3条第1号委員
高知県立大学	教務部長	長戸 和子	第3条第2号委員
高知工科大学	教育センター長	古沢 浩	第3条第3号委員
高知工業高等専門学校	教務主事(副校長)	竹島 敬志	第3条第4号委員
高知学園短期大学	教務部長	吉村 斉	第3条第5号委員
株式会社ヒワサキ	取締役相談役	日和崎 二郎	第3条第6号委員

3 組織体制

平成27年11月に本学地域連携推進センター内に地方創生推進部門を設置するとともに事務部門として地域連携課内に地方創生推進室を設置して業務運営を開始しました。

平成28年4月からは、COC+推進コーディネーター及び同補佐の2名を迎え、組織体制が整ったことから、事業目標達成に向けた事業活動が進められています。

また、平成30年10月からは、センター改組により、次世代地域創造センター内に地域サステナビリティ部門が設置されました。

連携を図るため、県内高等教育機関担当者と高知県担当者からなる担当者連絡会を平成28年度から、月1回開催して情報の共有等を行っています。

(平成30年度組織体制)

事業責任者

役職	氏名
副学長(地域連携・広報担当)	受田 浩之

次世代地域創造センター

役職	氏名
センター長	受田 浩之

地域サステナビリティ部門

役職	氏名
COC+推進コーディネーター(地域サステナビリティ部門長)	川竹 大輔
兼務教員(地域サステナビリティ部門長)	吉用 武史
COC+推進コーディネーター補佐(地域サステナビリティ部門専任教員)	川澤 慶洋
兼務教員(UBC)	赤池 慎吾
兼務教員(UBC)	梶 英樹
次世代地域創造センター事務補佐員	仲田 理恵
// 事務補佐員	田邊 みき

地方創生推進室

役職	氏名
地方創生推進室長(地域連携課長)	芝 弘行
地方創生推進係長	武政 麻美
地方創生推進係員	森田 尚希
// 教務補佐員	木下 敦子
// 事務補佐員	大槻 聖子
// 事務補佐員	和田 恵理

1 地方創生推進士の活動

◎活躍が期待される地方創生推進士

「地方創生推進士」は、高知県内の高等教育機関(高知大学、高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校)の教育課程で、地域の住民と積極的に触れ合い地域の課題解決に取り組む経験などを経て、地域への理解と愛情を深め、高知をはじめとする地域で働き貢献したいという学生に与えられる称号です。

地域を知り、地域と会い、仕事を体験し協働する一連の教育プログラムを、第1フェーズから第5フェーズまで設け、地域への理解と愛情を深め、地域に貢献したいとする学生を「地方創生推進士」として認証します。地域の未来をつくる革新力となる人材、すなわちローカル・イノベーターとして期待されています。

平成29年3月には地方創生推進士が6名卒業をして、うち5名が県内就職を果たしました。平成30年度は初めて誕生した社会人の地方創生推進士の活動が始まったほか、学生の地方創生推進士の活動が本格化しました。地方創生推進士取得をすすめるにあたって、従来のようにオリエンテーションなどの機会を見つけて説明をする機会を設けるとともに、すでに地方創生推進士を取得した学生が後輩に声をかける動きも出ています。

地方創生推進士の就職受け皿になる企業に対しては、アンケート調査や社長インターンシップの協力依頼、さらに地方創生推進士の活動をSNSなどの媒体を通じて広報をしました。

その結果、認証取得に向けた履修指導・教員への協力依頼が積極的に行われたこともあって、平成30年度の地方創生推進士育成目標数が当初の想定では30名であったところ、平成30年度末で68名(高知大学66名、高知工科大学1名、高知工業高等専門学校1名)が「大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議」で、想定の倍以上の若者が地方創生推進士として認定されました。

地方創生推進士のメンバーでは、月に一度程度の集まりを定期的に行き、「地方創生推進士の認知度を高める」「地方創生推進士として地域に貢献する」ためにできることを話し合っています。



平成30年度は5月15日に高知商工会議所青年部と地方創生推進士の意見交換を契機にして、6月18日に地方創生推進士と高知商工会議所青年部研修会を訪問し、7月18日には高知商工会議所青年部と高知市職員、学生の「高知の未来を考える交流談話会」に参加しました。

高知商工会議所青年部のメンバーとつながった地方創生推進士のなかでは、11月25日に路面電車で企業と学生の交流会を企画する学生が登場して、テレビや新聞・SNSで話題になったほか、平成31年4月オープンを目指して企業と学生の交流拠点づくりに協力する動きが出ています。

社会人になった地方創生推進士には、授業のなかでゲスト講師をつとめて先輩の活躍ぶりを紹介してもらい、2月19日のCOC/COC+全国シンポジウムでパネラーとして登壇してもらうといった協力をお願いしています。

地方創生推進士の人数が前年同期比3倍になるなか、今後の地域での活躍や更なるネットワークづくりが期待されています。

おきゃく電車と社長呑み!
 熱い思いを抱いた高知の経営者と
 おきゃく電車と語り合いませんか?
 1
 学生のみぞさん!!
 日時: 2018年11月25日(日)
 集合: 17:00 (16:30受付開始)
 (場所: 高知大学学術情報基盤図書館)
 開演: 20:30 予定
 (場所: 高知大学総合研究棟一階ロビー)
 参加費: 無料 (申し込みあり)
 お問合先: 090-7646-1884 (担当: 立野 雄二郎)
 「おきゃく電車と社長呑み」企画のチラシ



地方創生推進士の認定証と認定バッジ

2 県内就職率向上

① えんむすび隊

○ えんむすび隊とは

えんむすび隊は高知大学の全学生を対象に、随時企画・実施される実践的地域学習です。「地域で学ぶ、地域を学ぶ1日だけのstudyツアー」をテーマに、学生が高知県内の各地域を訪ね、さまざまな体験を通して地域の魅力や課題を学び、発見することをねらいとしています。

平成25年度から121回実施されており、500名を超える学生が参加しています。また、実施の際は必ず教員が引率し、農業等の体験やワークショップを必ず実施することで、学生にとって見学のみにならない学びの機会となるようプログラムを設計しています。なお、「えんむすび隊」は「地方創生推進士育成科目」(準正課/第3フェーズ該当科目)に位置付けられています。

○ 平成30年度実施状況(※平成31年2月末時点)

平成30年度は16企画中13回実施し、133名の学生が参加しています。

実施日	ツアー先	内容
5月12日	安田町	自然薯の植え付け
5月13日	いの町	菜の花の刈り取り
6月3日	本山町	田んぼアート 田植え手伝い
6月17日	四万十町	ドローン教室
6月30日	南国市	山地酪農を学ぶ
8月28日	中土佐町	地域子ども会と避難訓練
10月21日	本山町	田んぼアート 稲刈り
11月17日、18日	本山町	アウトドアリーダー体験
11月23日	いの町	コスモスの刈り取り
12月1日	安田町	自然薯の収穫
12月8日	南国市	山地酪農を学ぶ
12月9日	安田町	なかやま山芋まつり
12月9日	越知町	伝統料理のレシピ起こし
2月21日	佐川町	ひなまつりの飾りつけ
2月24日	四万十町	大正浪漫ひなまつり
3月30日	高知市	ものづくりアイデアソン

○ 平成30年度告知ポスター(一部抜粋)



○ 本年度の概観

参加した学生からは「地域の方々の強いつながりに驚き、すごいと感じた」「実際にその場所に行かないと分からないこと、知らないことがたくさんある」という地域への理解と発見に関する感想や「SNSのない環境や深く長い人付き合いを見て、大切なものについて考えるきっかけになった」など、地域に関わることが学生の人間的成長にも大きく貢献していることがうかがえる感想も寄せられました。

また、今年度も多数の留学生が参加し高知県について学ぶとともに、地域や日本人学生にとっても、インバウンド観光などの課題について学ぶきっかけとなりました。なお、「えんむすび隊」はメディアで取り上げられることも多く、今年度は13回中8回の取材を受けています。



② 土佐FBC部分受講

食品産業の中核人材として活躍することを願い、土佐FBC（フードビジネスクリエーター）人材創出事業で意欲的に学ぶ社会人と一緒に、学生が机をならべ学習して交流を行う土佐FBC部分受講を、準正課（3フェーズ）の位置づけで開きました。

「商品開発」「食と地域のつながり」（座学で合計21時間、7月から10月開催）の2つのコースのうちから選択して履修するコースを設けています。

高知大学農林海洋科学部と人文社会科学部で学ぶ3名が受講して、社会人との交流プログラムも経験し、全員が修了しました。

受講生募集 6月8日締切

地方創生推進士育成科目 3rd phase 準正課

土佐FBC部分受講

食品産業を担っていく社会人と学び、交流をしよう。



県内で食品産業の中核人材として活躍することを願い、土佐FBC（フードビジネスクリエーター）人材創出事業で意欲的に学ぶ社会人と一緒に、学生が机をならべ学習して交流を行う講義を、準正課の位置づけで開きます。
「商品開発」「食と地域のつながり」（座学で合計21時間、7月から10月の開催）の2つのコースのうちから選択して履修するコースを設けました。
食品加工学、フードビジネス論、6次産業化論、マーケティングなどを学ぶことができます。



座学

交流プログラム



※部分受講では「座学」のみ受講可能受講料は無料。
※会場は高知大学物部キャンパスの教室です。夜間休日にも開講します。
物部キャンパスへの移動は各自でお願いします。
※応募選考後、初回授業までにオリエンテーションを受けていただきます。
※平成30年度の受入可能人数は4名です。
※講義だけでなく、飲食を含む社会人との交流プログラム（1回）を別途予定しています。

<相談・申込み先>

○土佐FBCⅢ企画運営室（物部キャンパス）

Mail:tosa-fbc@kochi-u.ac.jp Tel:088-864-5158

○コラボレーション・サポート・パーク（朝倉キャンパス）木下

Mail:cobo@kochi-u.ac.jp Tel:088-844-8932

この準正課は地方創生推進士育成科目の第3フェーズになるものです。

めざそう！
地方創生推進士！！



○ 土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業 平成30年度カリキュラム

食と地域のつながりコース 21時間						
カリキュラム(大分類)	科目番号	科目名	時間数	講師名	講師所属	開講日
食品製造・加工 (24時間)	1	食品製造工学	3	久塚 智明	(株)FBTプランニング	
	2	食品加工学	3	福留 奈美	フードコーディネーター・お茶の水女子大学専門食育士(上級)	9月22日
			3	森山 洋憲	高知県工業技術センター	
	3	食品化学	9	島村 智子	高知大学	
4	食品微生物学	6	吉金 優	ノートルダム清心女子大学		
マネジメント (54時間)	5	フードビジネス概論	3	久塚 智明	(株)FBTプランニング	7月3日
			3	松田 高政	土佐FBCⅢ/(株)こうち暮らしの楽校	7月3日
	6	食品流通	3	朝倉 和也	旭食品(株)	
			3	窪添 真史	旭食品(株)【土佐FBC7期選択受講コース修了生】	
	7	6次産業化論	3	峠 篤士	高知県産業振興センター	8月14日
			3	泉谷 伸司	(有)泉利昆布海産【土佐FBC2期Aコース修了生】	8月28日
			3	春田 聖史	(株)スイーツ【土佐FBC9期Cコース修了生】	8月28日
	8	知的財産管理	3	下方 晃博	高知大学	
	9	マーケティング	3	石川 靖	(株)土佐山田ショッピングセンター	10月23日
			3	東森 歩	ファンドレイジング・マーケティング【土佐FBC10期Bコース修了生】	10月23日
			9	中島 和代	なかじま企画事務所	
3			松田 高政	土佐FBCⅢ/(株)こうち暮らしの楽校		
3			安田 雅彦	(株)電通		
10	事業計画	9	山口 和紀	ジェットロ高知		
11	経営戦略	9	松田 高政	土佐FBCⅢ/(株)こうち暮らしの楽校		
		6	奥谷 敦子	奥谷商売研究所		
品質管理 (24時間)	12	食品分析学	3	栗田せりか	土佐FBCⅢ	
			3	土居 幹治	マルトモ(株)	
			3	内藤 悦伸	(株)インテリジェントセンサーテクノロジー	
	13	食品衛生学	3	樋口 慶郎	(株)小川商会	
			3	小野 邦桜	高知県食品・衛生課	
			3	浜渦佐央里	高知県地域農業推進課	
6	富 裕孝	土佐FBCⅢ				
6	宮本 敬久	九州大学大学院				
食品機能 (24時間)	14	食品学	3	沢村 正義	高知大学名誉教授	7月6日
			3	中村 文隆	南国スタイル(株)【土佐FBC1期Aコース修了生】	
			3	森山 洋憲	高知県工業技術センター	7月10日
	15	食品機能学	3	富 裕孝	土佐FBCⅢ	
			3	西沢 邦浩	(株)日経BP	
			3	渡邊 浩幸	高知県立大学	
16	生理・薬理学	3	上岡 樹生	高知大学		
		3	竹内 啓晃	高知大学		
実習 (34時間)	17	実験技術	18	柏木 文拡	高知大学	
			18	栗田 せりか	土佐FBCⅢ	
	18	現場実践学	16	富 裕孝	土佐FBCⅢ	
			16	岡本 佳乃	高知県工業技術センター	
			16	下藤 悟	高知県工業技術センター	
16	近森 麻矢	高知県工業技術センター				
16	森山 洋憲	高知県工業技術センター				

③ 社長インターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」(準正課)では、第4フェーズのなかで「社長インターンシップ」を開講しました。

「社長インターンシップ」は、県内で活躍する中小企業経営者や団体トップに密着同行し、企業経営者らの考え方やリーダーシップなどを直接学ぶインターンシッププログラムです。

地域企業の実情に直接触れ、課題の認識と解決のための方策を考えることで、地域に定着して貢献することの意義を自分事として捉えることを目的としています。

以下の企業団体にご参画いただきました。

株式会社サニーフーズ、四国管財株式会社、株式会社土佐龍馬の里、有限会社戸田商行、株式会社ヒワサキ、丸和建設株式会社、ミタニ建設工業株式会社、宮地電機株式会社、依光瓦工業有限会社、株式会社高南メディカル、株式会社南の風社、和建設株式会社、株式会社アースエイド、有限会社アフロディア、白川浩平税理士事務所、株式会社リーブル

企業・団体の参画募集にあたっては、事業協働機関の経済団体の皆様にご協力を頂戴しています。心から感謝申し上げます。

企業への社長インターンシップでは、平成28年度は2事業所4名が、29年度は8事業所9名が、今年度は11事業所に15名の学生が参加をしました。

社長インターンシップの受講学生からは、「このインターンシップを通じて自分の成長を実感でき、応募して本当に良かった。働くことの大変さも思い知りました」

「サークル内で波風を立てないようにみんなに優しくしていることが、周りに嫌われたくないとの甘えに過ぎないのではないかとリーダーシップを学んだ」

「管理職の大事な仕事が社員の働きやすさや相談のしやすさをはかっていくことで、そのためにさまざまな工夫をしていることが分かった」

「効率よく作業ができるよう常に考え、考えたことを仲間と共有することが大事と社長から教わった」

といった振り返りがありました。

受け入れた経営者の方からは、「学生が来てくれることで若手の社員の刺激になった」

「学生がたくさん質問をしてくれるのがありがたい」

といった感想が寄せられています。



4 高知市長インターンシップ

高知市役所トップの市長に密着同行し、市長を通じて高知市役所の業務を体験するインターンシッププログラム「高知市長インターンシップ」を今年度は2回にわたって開きました。

市長の公務への随伴という職業体験を通じて、職業観や就労意欲を培い、自らの適職を考えていくとともに、高知市の市政に対する理解を深めていくことを目的としています。

前期と後期の募集に対して、地域協働学部と人文社会科学部の合計2名の学生が受講して、「忙しくていつも早足で移動する」高知市長に近づいてのインターンシップを体験しました。

インターン終盤になると日程を確保してもらい、市長と懇談する時間を設けるのも高知市長インターンの特徴です。



5 高知財務事務所長インターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」(準正課)では、第4フェーズのなかで「高知財務事務所長インターンシップ」を開講しました。

このインターンシップは社長インターンシップの一環で実施しており、財務省高知財務事務所長に密着同行することで、財務事務所の業務を体験するプログラムとなっています。

このインターンシップには5名の高知大学生が参加し、9月18日(火)から25日(火)の5日間にわたって高知財務事務所長の業務に携わりました。

9月25日には、高知財務事務所長インターンシップでのヒアリング調査報告会を実施しています。4日前に出向いた四国銀行へのヒアリング調査報告会が行われました。

四国銀行では、地方創生に向けた事業の1つとして「地方創生推進デスク」を設置するなど、積極的に地域の活性化に取り組まれています。

ヒアリング調査では「なぜ積極的に地方創生に貢献するようになったのか」「新規事業を始めるにあたってのメリット・デメリットは何か」「四国銀行が目指す地域創生」など、学生の目線で様々な質問がなされ、各々が感じた内容を共有し合う場となりました。

その際、どの学生にも共通して、「銀行のイメージがガラリと変わった」と印象を受けていたようでした。

財務事務所では、自治体・企業・NPOなど多種多様な組織と関わる機会が多いことから、「相手を知る」ことがとても大切になってきます。今回の業務では、国の機関についての知識だけでなく、多面的に物事を捉えることで見えてくる姿があることを知り、その大切さを体感することができました。



6 高知行政監視行政相談センターインターンシップ

「高知行政監視行政相談センター所長密着1weekインターンシップ」は、総務省高知行政監視行政相談センター所長に密着同行し、所長を通じて行政監視行政相談センターの業務を体験するインターンシッププログラムです。

国の出先機関の実情に直接触れ、業務を経験し成果(体験)を上司(事務所長)に報告することで、国と地域を繋ぐ架け橋として貢献することの意義を自分事として捉えることを目的としているもので、高知行政監視行政相談センターでの日々の動きや何げない会話から、国の出先機関トップの考え方やリーダーシップなどを学べるプログラムとなっています。今回は人文社会科学部の2名の学生が受講しました。

国家公務員の業務の概要や組織運営の課題などを聞きながら、学生である自分たちの課題や悩みをぶつけたり、所長の姿を実感しつつ、事務所業務の一端に向き合うことができました。



7 UBCインターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」(準正課)の一つ「UBCインターンシップ」では、県内各地に常駐するUBC(高知大学地域コーディネーター: University Block Coordinator)の指導のもと、4名の学生がプログラムを受講しました。

「UBCインターンシップ」は、地域の課題解決に向けて大学・地域・自治体等の関係機関を「コーディネート」するUBCの活動を体験するインターンシッププログラムです。地域の実情に触れ、課題を認識し解決のための方策を考えることを目指しており、受講する学生は、現在UBCが向き合っている地域課題に基づいて設定されたテーマにUBCとともに取り組み、UBCの視点から実体験を通じて学びます。

受講した学生は、UBCの活動を通じて地域を体験するとともに、大学と地域をつなぐコーディネーターの役割の大きさを実感しています。

UBCインターンを希望した学生は、受講を希望した動機として、

- 地域の課題解決に向けて熱心に取り組まれているUBCの先生方の考え方や地域貢献の手段などについて深く学び、吸収したいと考えた。
- 新たな高知県の魅力を地域に密着しているUBCの活動から発見したいと考えた。
- サークル活動で関係する地域を活性化させるうえで、他の地域は観光客を集めるのにどのような取り組みをしているのか知りたい。

と述べています。

また、UBCインターンを体験した学生からは、「ある一つの問題の解決でなく、それを通じた地域全体の活性化という視点が重要なことを学びました」「観光はただ事業を行うだけでなく、どうやってお金を落としてもらうかを考えなければならないということが分かりました」「自治体トップが加わる会議に参加して、行政側も学生の意見を求めていることが実感できました」とのレポートがありました。

今後も、地域に定着して貢献することの意義を自分事として捉えることのできる人材の育成を目指して、UBCインターンのプログラムを充実させていきます。



8 コラボ考房プロジェクト

コラボ考房プロジェクトは、自律した人材の育成をめざし構築された教育プログラムで、地方創生推進士の育成科目に準正課として位置付けられ第5フェーズに該当しています。毎年学生団体を募集し、採択された団体に対して1年間にわたってプロジェクトの企画立案支援や、組織づくり、実施の支援やアドバイスなどを行っています。また年4回のブラッシュアップ会を開催し、活動の進捗状況や成果などを発表しています。既存の学内の地域活動をしている先輩団体との交流や意見交換や情報共有の場ともなっており、学生団体間の相互のコミュニケーションを促進する役割を果たしています。



▷さきはまパンフレット

○ 支援内容

必要に応じて打ち合わせを行い、活動の進捗状況の確認や、公費による活動支援、パネルや机、テントなどの活動に伴う必要な物品の貸し出しの他、イベント時の広報活動支援等を行っています。また、市町村の学生活動支援補助金など外部資金獲得のための申請時のアドバイスやサポートも行っています。平成30年度は支援活動団体「土佐の懸橋 ハンプロ」のメンバーが「香美市学生地域活動支援事業費補助金」に応募し無事採択され、一層地域での活動に弾みをつけることができました。また「さきはま大好きプロジェクト」のメンバーは、支援やブラッシュアップ会のアドバイスをもとに、室戸市佐喜浜地区の魅力をもとに、室戸市佐喜浜地区の魅力をもとに、学生目線で紹介したパンフレットを1年間かけて制作すると同時に、ブログを立ち上げ積極的に地域の魅力・情報の発信を行うことができました。

○ 学生団体の主な活動

学部や学年の枠を超えて、同じ志や思いをもった仲間と一つのテーマを共有し地域や学内の様々な活動に取り組んでいます。

○ プロジェクト内容

(2019.2.26現在)

プロジェクト名	チーム名	人数
室戸市佐喜浜の観光場所の整備及び情報提供	さきはま大好きクラブ(さきはま)	7
そうだ、狩りに出よう。～狩猟を通して、中山間の野生動物の共生を考える～	土佐の懸橋 ハンプロ	5
教科書中古販売及び地域貢献活動	Book for Happiness	2
次世代につなげよう地域の食	安田(あんた)の食応援隊	10
バリアの視点からまちを元気に!!	地域まちづくりプロジェクトコンパス	3
エコな野菜で地域と環境を応援!!	虹野菜工房(ファーム)	3
えいこやあプロジェクトin日高	あだたん!!!!	4
土佐の日曜市から情報発信	Sunday Market Supporters	2
地域×国際×学生	国際茶屋	13
～旭地区の歴史・記憶・思いをつなぐ今昔写真集を作ろう～	あさつな	4

平成30年度に活動した団体は、10団体、53名の学生です。昨年度から引き続き継続しているさきはまとハンプロに加えて、高知市旭地区の変わりゆくこの50年間の地域の歴史や人々の暮らし、文化を写真をととして次世代に継承していこうという活動をしようと「あさつな」が新規活動団体として採択されました。一方長年継続してきた中で成果を得た上でこれまでの活動を振り返り、一旦活動を終息させた団体も2つありました。それぞれの団体は、東は高知県室戸市、西は四万十町など県内各地で国際交流、福祉、鳥獣被害対策、地域活性の取り組み、地域資源の掘り起こしと魅力の情報発信など多岐に及ぶ活動をしています。



○ 実施スケジュール

- 4月 コラパ～春芸祭の開催
- 5月 学生団体の募集開始(前期)
- 6月 第1回ブラッシュアップ会の開催
- 10月 第2回ブラッシュアップ会の開催
学生団体の募集開始(後期)
- 11月 黒潮祭での出展 地域活動紹介
- 12月 第3回ブラッシュアップ会の開催
- 3月 第4回ブラッシュアップ会の開催



学生団体「土佐の懸橋 ハンプロ」の広報ちらし



グループワークの様子

3 雇用創出

① 学生の県内定着または雇用創出に係る研究の推進

採択課題：日本遺産を活用した中芸5ヶ町村の観光雇用を創出・拡大するための調査研究

高知県中芸地区(奈半利町・田野町・安田町・北川村・馬路村)は、人口減少・過疎高齢化に直面しており、2015年10月現在、地区人口は13,354人(2010年比マイナス9.4%)となっています。また相対的に産業インフラに乏しい郡部では、地域資源を活用することで域外からの消費を獲得することが可能な「観光産業」への期待が高まっています。

こうした状況を打破するため、中芸地区では、産学官連携による地域資源の磨き上げを行い、2017年4月に単独では県内初となる日本遺産認定を果たしました。高知大学では、人文社会科学部教員を中心に地域史研究やストーリー作成を通じて、「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」の日本遺産認定の支援を行ってまいりました。認定初年度となる2017年実績をみると、観光入込客数は前年比6.2%増(54万1,750人)、雇用創出2名(地元採用)、シェアオフィス1社増など目に見える成果が出はじめています。

2018年度は、これまでの研究活動を通じて築いた当該地区の人々との信頼関係に基づいて、産学官連携による日本遺産地域振興モデルを構築し、あわせて観光産業における高知大学シーズの可視化を図ることを目的に以下の活動を実施しました。


- 地域観光マーケティング調査では、世界三大森林鉄道である阿里山森林鉄道(台湾嘉義市)を訪問し、森林鉄道遺産等を活用したビジネスモデルや提供されるサービス、さらに大学の地域連携等による新しい観光商品開発や雇用創出の知見を得ることができました。具体的には、森林鉄道ミュージアム等による地域学習を通じた観光サービスの提供、地域文化を活かした体験プログラムづくりなど、さまざまな雇用創出の種を発見しました。
- 教育旅行(スタディツアー)による学生起業創出に向けた調査では、国立大学法人琉球大学観光産業科学部の学生にヒアリング調査を実施しました。学生との意見交換では、教育活動からプロジェクトへの発展段階と支援のあり方、また受け入れ側である地域団体へのアプローチ方法など教育を通じた産学官連携の可能性を学びました。
- 多言語教育と観光振興の協働事業では、日本語を学ぶアジア圏の留学生26名と日本人学生4名による「インバウンド・モニターツアー」を実施しました。実際に日本遺産を訪問し、訪問場所ごとにアンケート調査を行い、満足度や改善点を話し合いました。学生には、スタディツアーの形をとって、言語教育だけではなく、地域の文化資源の発掘と発信を考えるための実践力を培い、学生の「地域理解」と「地域の愛着」に繋げることを目的としています。このような留学生によるインバウンド・モニターツアーは高知県内では例がなく、今後のインバウンド観光を推進する産学官連携のモデルとなることが期待されています。

本調査研究により、大学研究者による地域貢献に加えて、教育活動を活用した新たな地域貢献モデルを提示することができました。今後は、大学生にしかできない・大学生だからこそできる旅行商品の開発や学生起業を推進する支援体制の検討を行います。あわせて、高知県産業の起爆剤として期待されるインバウンド観光の推進に向けて、留学生等を中心とした観光資源の多言語化や情報発信など観光産業に資する高知大学の新たなシーズとして県内他地域にも展開します。

高 知 新 聞

留学生 林鉄とユズ体験

【中芸】日本遺産は、小島地区では集会所で中芸5ヶ町村のゆずを体験し、住民らと交流。旧魚梁森林鉄道、近所の林鉄遺構、小島橋や、実生ユズの畑に誘われて、高知大学の留学生らも中芸地区を訪れた。高知大学の留学生らも中芸地区を訪れた。高知大学の留学生らも中芸地区を訪れた。



森林鉄道の遺構「小島橋」を渡る高知大の留学生ら(北川村小島)

2018年(平成30年)6月27日

② 食品産業人材育成事業

高知大学が地域の食品産業における中核人材育成事業として実施している「土佐フードビジネスクリエーター人材創出(土佐FBCⅢ)」において、雇用創出のための更なる拡充策として、国の認証制度である「食の6次産業化プロデューサー(通称：食Pro.)」及び企業の海外販路開拓支援として「土佐FBCグローバルプログラム」に取り組んでいます。

食Pro.においては、BBコース(160時間の履修)でレベル1~3までの取得が可能となるプログラムを構築し実施しました。

平成30年度は、BBコース20名、部分受講10名の修了生が輩出されました。

「土佐FBCグローバルプログラム」は、土佐FBC修了生所属企業及び学生を対象にした食品における海外ビジネスを外国で実際に体験する研修プログラムです。海外ビジネスに豊富な経験をもつ専門家の指導により商談や展示会参加の留意点等必要な知識を修得する事前研修(3回)と、海外で開催される展示会に出展する海外研修に30年度は、「葉にんにく調味料・黒にんにく」などを製造・販売する(株)アースエイド・井上氏と高知大学の学生3名が参加しました。

研修成果として、(株)アースエイドは現地レストランにおいて、「葉にんにく調味料」を用いたメニュー開発を行い、香港高知県人会主催のパーティーで提供するなど、現地で効果的な販促PR活動ができました。また、現地商社と商談した結果、商品の輸入元となっていただけることになり、香港への販路開拓への体制が整えられました。

本プログラムが海外に対応できるグローバルな人材の育成の一助となり、また、JETRO高知の専門家や土佐FBC教員とともに展示会に出展したことで、海外販路開拓についてのノウハウが得られ、今後の海外事業展開の端緒となることを期待します。



現地レストランでの提供料理：アヒージョ、スモークサーモンサラダ、パスタ等

事前研修会(第1~3回)

● 第1回事前研修会

【日時】2018年6月20日(水) 15:30~19:00

【場所】高知大学地域連携推進センター2階 セミナー室

【内容】本プログラムの参加者、(株)アースエイド・井上氏と高知大学生3名が参加。

第1回目の事前研修は、ジェトロ高知の山口所長よりプログラムの概要説明があり、続いて「香港の日本食品市場の概要」「香港向け食品輸出の実務基礎」と題した講義が行われました。その後休憩をはさみ、商品をどう売り込んでいくか、参加企業及び商品のSWOT分析などについての講義が行われ、最後に課題設定をかねたディスカッションを行いました。

● 第2回事前研修会

【日時】2018年7月4日(水) 15:30~19:00

【場所】高知大学地域連携推進センター2階 セミナー室

【内容】 イートジャパン(株)営業部長の石井寛人氏より、「現地商社の目で見えた香港の飲食店市場での日本産食品の現状」と題した講義が行われました。その後、ジェトロ高知の山口所長より、香港フードエキスポ・ジャパンパビリオン出品者説明会の報告があり、最後に課題設定をかねたディスカッションを行いました。

● 第3回事前研修会

【日時】 2018年7月26日(木) 15:30~19:00

【場所】 高知大学地域連携推進センター2階 セミナー室

【内容】 (株)アースエイドの井上氏と、学生参加者3名による、事前研修成果と仮説の発表が行われました。その後、本番を想定したブースの飾り付けの要点や学生が担当する来場者への呼び掛け、相手に合わせたヒアリング方法などが指導され、実際に体験しました。また、現地での商談では、海外での販売実績や販売対象者の的を絞ることが有効な手段となることや、香港における販売代理店の存在が話を進める上で役に立つことが共有され、最後に、香港での研修日程の最終確認を行い、事前研修会を終了しました。



海外研修プログラム(香港)

- 【プログラム概要】 8月13日(月) 高知発・香港着(企業)
 8月14日(火) 高知発・香港着(学生等)、ジェトロ香港でのブリーフィング、香港5019 Premium Factory訪問
 8月15日(水) 小売店・飲食店等視察、現地商社GOGO FOODS訪問・商談、展示会場にて出品準備、香港高知県人会等
 8月16日(木) 香港Food Expo 2018・ジャパンパビリオン出品、研修
 ~19日(日) 小売店・飲食店等視察
 8月20日(月) 香港発、高知着

【内容】 香港コンベンション&エキシビジョンセンターにて8月16日~18日、香港最大級の国際総合食品見本市「香港Food Expo 2018」が開催され、(株)アースエイド・井上氏と学生3名が参加しました。

展示会では、展示用商品である「葉にんにく調味料、黒にんにく」を展示するとともに、葉にんにくの商品であるということがイメージしやすいようにポスター等でブース作りを行い、本番がスタートしました。

本番では、小売店の視察でサーモンの売り場が充実していたことから、炙りサーモンに葉にんにくソースをのせて試食PRを行い、学生らは、自身の英語力と事前研修でのシミュレーションを活かし、来場者への試食提供と商品説明を積極的に行いました。

(株)アースエイド・井上氏も、林芳正文部科学大臣(当時)への商品説明をはじめ、多くのバイヤーから名刺交換や商談を求められ、同行スタッフのサポートのもとで具体的な商談を数多く進めることができました。



香港滞在中は展示会の他、JETRO 香港への訪問や小売店・飲食店の視察を行い、現地の売り方やニーズを確認し、さらには現地商社「GOGO FOODS」と商談を行い、今後、商社として間に入ってもらうことが決まりました。

研修報告会

【日時】 2018年10月31日(水) 15:30~19:00

【場所】 高知大学次世代地域創造センター2階 セミナー室

【内容】 事前研究・海外研修の報告があった後、研修参加者がこれまでの研修成果を以下の内容を中心に報告し、それに対して講師が講評を行いました。

<主な報告内容>

- 香港研修前の自分の仮説について
- 仮説の検証方法について
- アンケート及びインタビュー結果の報告
- 仮説との一致点及び相違点について
- 香港向け改良・開発提案
- 商談の結果報告、バイヤーの声の紹介
- 目標と抱負の振り返り、今後の目標



3 観光人材育成事業

雇用創出プログラムのひとつである観光人材育成事業では平成28年度に発足した「観光人材育成事業検討会」で必要とされる人材像と教育カリキュラムの検討を行い、平成29年度から「こうち観光カレッジ」を開講し実施しています。

こうち観光カレッジは、地域づくり、組織づくりの観点に特化した中核的な観光人材を育成するプログラムです。県内はもとより日本国内の観光に関するエキスパートを講師として迎え、観光マネジメントをはじめにフィールドスタディまで幅広く学べるようにしました。

「マーケティング力・マネジメント力・実践力」「ファシリテーション力・チーム形成力」「情報収集分析力・企画力」「発信力・プレゼンテーション能力」を高めることを狙っています。

平成30年11月7日の基調講演「高知が選ばれ続けるために必要なこと」では、観光カリスマの山田桂一郎氏の講演に対し、高知県立大学の観光に関心をもつ学生や一般の皆様を含め約100名の参加者が、魅力的な観光地をつくるためには、そこに住む人々が地域を良くするために自分たちで動くことが必要だといったことを学びました。

こうち観光カレッジの受講生21名は、

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 知識をしっかりと習得し、実践力やプレゼン能力を磨きたい | 地域の観光面でイノベーションを起こしたい |
| 企画の考え方や展開の仕方、実践を学びたい | 個人としても学び、地域の仲間にも伝えたい |
| インバウンド受入で新しく事業化をしたい | 旅行業の経験が浅いので、連携する仲間を探したい |
| 持続可能な観光推進組織の立ち上げに活用したい | 高知の観光分野で活躍する人材になりたい |
| 地域にお金が落ちる仕組みづくりを考えている | アグリツーリズムに関する知見を得たい |
| 高知の魅力をブラッシュアップしたい | 異分野から視野を観光に広げたい |

といったような受講動機のもと、11月から1月にかけての週末を中心に行われた講義を熱心に受けました。なかには、こうち観光カレッジ修了生(1期生)のみなさんによる、観光企画ブラッシュアップやケースメソッドといった双方向の講義もありました。

各地からいらした講師の方々からは、受講生が自ら活発に質問をして、グループワークを率先して進めていることに高い評価をいただきました。

その結果、18名が修了認定を受け、1名の受講生が「観光プロジェクト企画実習」(インターン)の学びとして、株式会社四万十ドラマにお世話になりました。

今後のそれぞれの修了生の活躍と、1期生が誘い合わせて観光を担う企業が誕生したことに続く修了生ネットワークの発展が期待されます。



○履修カリキュラム一覧 (全34時間)

日程	時間	講義	講師
11月7日(水)	13:30~14:30	基調講演	JTIC.SWISS代表 山田 桂一郎
	14:30~15:00	開講式	
	15:00~17:00	ディスカッション	JTIC.SWISS代表 山田 桂一郎 高知大学次世代地域創造センター長 受田 浩之
11月11日(日)	13:00~16:00	インバウンド	日本航空株式会社高知支店長 磯村 康志
11月17日(土) 11月18日(日)		観光地域づくり現場実習 (宿泊あり、実費負担)	徳島県つるぎ町、三好市祖谷
12月1日(土)	9:00~12:00	地域学	高知大学次世代地域創造センター 講師 大崎 優
12月1日(土)	13:00~16:00	観光企画ブラッシュアップ	こうち観光カレッジ修了生ネットワーク
12月8日(土)	9:00~12:00	観光地域づくり体制構築 ・DMO/DMC	株式会社ものべみらい 代表取締役社長 古川 陽一郎 投資事業部長 吉田 正史
12月8日(土)	13:00~16:00	ファシリテーション ・リーダーシップ	高知大学地域協働学部 講師 須藤 順
12月15日(土)	9:00~12:00	ネット活用戦略	株式会社ビーチュー 代表 雨宮 伊織
12月15日(土)	13:00~16:00	観光企画ブラッシュアップ	こうち観光カレッジ修了生ネットワーク
12月22日(土)	13:00~16:00	観光地域デザイン	株式会社四万十ドラマ 代表取締役 畦地 履正
1月19日(土)	9:00~12:00	ケースメソッド	アイヌ民族文化財団専務理事 今井 太志 1期生 石原 光訓
1月19日(土)	13:00~16:00	観光地域ブランディング	北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田 麻実
1月20日(日)	9:00~16:00	ケースメソッド	アイヌ民族文化財団専務理事 今井 太志 1期生 石原 光訓



11月7日 基調講演



11月17日~18日
世界農業遺産の取り組みを知る



観光企画ブラッシュアップ

○ こうち観光カレッジ 現場実習 (世界農業遺産とインバウンド受入先進地から学ぶ)

日程	時間	内容	備考
11/17(土)	8:00	①高知大学次世代地域創造センター 発	マイクロバス利用
	10:00着 11:40発	②つるぎ町役場 概要説明 (世界農業遺産の取り組み)	同行者：つるぎ町
	12:30着 14:00発	③美馬市瀧名集落 ・住民主体での農家レストランの開業 ・修学旅行の受入、交流人口拡大への取り組み ・6次産業化(農家民宿、干し芋、お茶)への取り組み	
	15:00着	④つるぎ町剪宇集落「にし阿波の傾斜地農耕システム」の説明、畑に入り農業の方法、農機具、茅場、石垣などを説明 ～17:00	
	17:30	⑤民宿家曾敷 夕食・ディスカッション	
	21:00	⑥つるぎの宿岩戸	
11/18(日)	7:40	①家曾敷 発	
	8:00	②つるぎの宿 発 見ノ越経由	マイクロバス利用
	9:30着 9:45発	③案山子の里・名頃(体験15分) ・公民館と小学校跡	同行者：IYA Times
	10:25着 11:25発	④そば道場・落合集落(体験1時間) ・ローカルガイド	
	12:25着 13:20発	⑤歩危マート(体験55分) ・ハニカム体験と昼食	同行者：一般社団法人そらの郷
	13:30着	⑥道の駅大歩危 ・観光圏の取り組み説明と意見交換	
	17:00	⑦高知大学着	

④ 起業支援事業

平成28年度末に設置した起業部は、平成29年度は10名の部員により活動しました。活動の基本期間を1年間に設定したことから、平成29年度末に各部員との面接により意識の変化や具体的な進路について確認しました。以下に数名の事例を参考に示します。

- 高知県内企業と上海企業とのマッチングのため県内企業に協力。この他、香港の貿易系企業に高知県の優良商品を紹介する事業も実施。
- 地域資源の活用と学生ツアーを結び付ける企画でキャンパスベンチャーグランプリ四国大会(四国経済連合会)優秀賞を受賞。
- 地域に対する関心から地域の教育問題へと思考が収斂し、地域協働学部卒業後に教育学部の大学院に進学予定。
- 農業の可能性や担い手育成に対する想いから高知県内のソーシャルベンチャーに長期インターンシップのため休学し、一次産業の複合型循環モデルを学ぶ。

平成30年度は新たな部員確保に向けた取り組みとして、5月に説明会を開催するとともに、起業部ホームページも開設し、部の情報や活動の見える化に取り組みました。平成30年度は新たに3名が入部し、前年度からの継続者4名と併せて7名の部員体制にて各種活動を行いました。

また、起業部の取り組みは、全国的にはまだ稀有であることから、本学の取り組みを以下により情報発信しました。

【論文投稿】産学官連携ジャーナル2018年5月号. p4-6.

【学会発表】産学連携学会山口大会(6月14日、15日). 一般講演.



説明会



ミーティング風景



開講式



にし阿波家曾敷での学び



12月22日 観光地域デザイン

全国ネットワーク化事業 平成30年度COC/COC+全国シンポジウム

高知大学は、2月19日(火)～20日(水)、全国ネットワーク化事業 平成30年度COC/COC+全国シンポジウム「見える大学 魅せる大学」を高知市で開催し、全国の大学や県内自治体関係者ら300人以上が参加しました。

本シンポジウムは、文部科学省が進める「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC/COC+)」の一環として、平成25年度から全国のCOC及びCOC+実施期間の取りまとめ校として開催しており、今回は、これまでのCOCやCOC+の実績を踏まえ、地域の生産性の向上、若者の定着を促進するとともに、日本全国や世界中から学生が集まるような地方大学づくりの推進について議論しました。

1日目は、櫻井克年学長による開会挨拶後、尾崎正直高知県知事の開催地挨拶(代読・井上浩之産業振興推進部長)、文部科学省の中野理美総合教育政策局地域学習推進課長の挨拶に続き、ジャーナリスト、『未来の年表』著者であり、高知大学客員教授でもある河合雅司氏からは「人口減少日本でキラリ輝く大学」と題した基調講演が行われました。

また、グーグル合同会社執行役員 中谷公三氏から「地方大学のブランド戦略に今求められているもの」と題した話題提供を行った後、「大学の見える化と魅せる化」と題したパネルディスカッションを実施しました。受田副学長をファシリテーターに、パネリストとして株式会社ヒワサキ取締役相談役 日和崎二郎氏、富山大学地域連携推進機構教授 金岡省吾氏、高知県産業振興推進部副部長 澤田博睦氏、株式会社第一コンサルタンツ(地方創生推進士、高知大学OB) 岩瀬誠司氏をお招きし、さらにコメンテーターとして河合氏、中野氏にも加わっていただき、大学間の取り組みを共有し、優れたGPを参考に積極的に採り入れていく共創関係を構築していくことについて活発な議論、質疑応答も交わされ、会場は大いに盛り上がりました。

2日目は、採択42機関のうち、これまでの事業展開の中で特に秀でた活動をしている4大学(徳島大学、信州大学、岩手大学、共愛学園前橋国際大学)から、その取り組みについて事例発表が行われました。発表後の質疑応答ではたくさんの活発な意見交換が行われ、実りある事例発表会となりました。

全国ネットワーク化事業 平成30年度 COC/COC+
全国シンポジウム
見える大学 魅せる大学
参加無料
(申込締切) 2月1日(金) 定員/500名

2019年
2月19日(火) 13:30~17:45
会場: 高知県立県民文化ホール(グリーン) 高知市本町4丁目3-30

14:15 基調講演
「人口減少日本でキラリ輝く大学」
(ジャーナリスト)『未来の年表』著者 河合 雅司 氏

15:30 話題提供
「地方大学のブランド戦略に今求められているもの」
グーグル合同会社 執行役員 中谷 公三 氏

15:50 パネルディスカッション
「大学の見える化と魅せる化」
パネリスト: 日和崎 二郎 氏(株式会社ヒワサキ)、金岡 省吾 氏(富山大学)、澤田 博睦 氏(高知県産業振興推進部)、岩瀬 誠司 氏(株式会社第一コンサルタンツ)、コメンテーター: 河合 雅司 氏(ジャーナリスト)、中野 理美 氏(文部科学省)

2月20日(水) 9:00~11:40
会場: 高知商工会館 高知市本町1丁目6-24 「事例発表会」

全国ネットワーク化事業 平成30年度 COC/COC+ 全国シンポジウム 見える大学、魅せる大学

〈第1部〉プログラム
2月19日(火) 13:30~17:45
会場: 高知県立県民文化ホール(グリーン) 高知市本町4丁目3-30

13:30 開会挨拶
13:40 開催地挨拶
13:50 文部科学省挨拶

14:15 基調講演
「人口減少日本でキラリ輝く大学」
ジャーナリスト『未来の年表』著者 河合 雅司 氏
高知大学客員教授

15:30 話題提供
「地方大学のブランド戦略に今求められているもの」
グーグル合同会社 執行役員 中谷 公三 氏

15:50 パネルディスカッション
「大学の見える化と魅せる化」
パネリスト: 日和崎 二郎 氏(株式会社ヒワサキ)、金岡 省吾 氏(富山大学)、澤田 博睦 氏(高知県産業振興推進部)、岩瀬 誠司 氏(株式会社第一コンサルタンツ)、コメンテーター: 河合 雅司 氏(ジャーナリスト)、中野 理美 氏(文部科学省)

17:40 閉会挨拶
18:30 懇親交流会

〈第2部〉プログラム
2月20日(水) 9:00~11:40
会場: 高知商工会館 高知市本町1丁目6-24

9:00 開会
事例発表
徳島大学 「地方創生官学コンソーシアム」の取り組みについて 玉 真之介 氏
信州大学 「ユニバーシティ・エンゲージメントを進める信州アカデミア構想」 林 慎太郎 氏
岩手大学 「若者が輝くことを目指す『ふるさと』について(高知プロジェクト)の取組」 小野寺 純博 氏
共愛学園前橋国際大学 「COC+事業における地域人材育成について」 奥山 隆一 氏

11:35 閉会挨拶

お問い合わせ先
高知大学 次世代地域創生推進センター
Kochi University
TEL. 088-844-8293 E-mail: kt10@kochi-u.ac.jp

申し込み方法
下記のアドレスからアクセスし
申込フォームに必要事項を入力ください。
http://www.kochi-cocplus.jp/



5 第3回全国COC+推進コーディネーター会議

● 2月19日～20日に開催された「全国ネットワーク化事業 平成30年度COC/COC+全国シンポジウム」に合わせ、全国COC+推進コーディネーター会議を開催しました。

1. 開催日時 平成31年2月20日(水) 13:30～17:00
2. 開催場所 高知商工会館「光の間」 高知県高知市本町1丁目6-24
3. 参加者 87名(コーディネーター等47校57名、陪席者14校30名)
4. 会議の概要

「COC+事業の成果を踏まえた、32年度以降の取り組みの検討状況や検討の視点」

● 事業終了まで1年となり、現在、ほとんどの大学が、32年度以降の展開について検討を行っていることから、その検討状況や課題について、情報共有を行うとともに、意見交換を行った。

① 北海道東北ブロック

幹事校の岩手大学から各大学の状況について説明があり、他の大学からその補足説明があった。

② 関東甲越ブロック

幹事校の山梨大学から各大学の状況について説明があり、他の大学からその補足説明があった。

③ 東海北陸ブロック

岐阜大学から各大学の状況について説明があり、他の大学からその補足説明があった。

④ 近畿ブロック

奈良女子大学から各大学の状況について説明があり、他の大学からその補足説明があった。

⑤ 中国四国ブロック

検討の進んでいる愛媛大学からその状況について説明があった。

⑥ 九州ブロック

各大学からその状況について説明があった。

● 各大学からは、検討状況は様々であるが、①人員を含む組織 ②事業を行うための財源が課題となっていることの説明があった。

● 31年度の夏ごろをめどに、検討状況を調査し、取りまとめることになった。

5. 来年度の開催

全国会議、ブロック会議ともに引き続き開催することとし、開催時期やその内容については、今後、調整することになった。



1 高知県立大学

1. 県内企業人との交流会

平成30年度も企業側の協力(人事担当者等の派遣や本学学生の受け入れ等)もあり、年間を通じて、本学学生へ県内企業と出会う場を複数回、設定することができました。事業の実現にあたり、多くの企業・団体の皆様にお力添えをいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

今年度、具体的には、以下3つを柱として事業を展開しました。それぞれの事業についての概要は以下のとおりです。これらの事業については、来年度以降も内容をより学生ニーズに沿うものとして工夫し、継続していきたいと考えています。

また、事業実施の結果として、386名の学生が68の企業・団体等(数はいずれも延べ数)との交流を図ることができ、学生へ県内企業のPRポイントを把握してもらうなど、県内就職に向けた意識の定着を図ることができ、今後、少しずつではありますが、効果を発揮してくれることを期待しております。

● 学部別ガイダンス

高知県内で活躍する本学卒業生を中心とした企業人を定期的に大学へ招き、高知県で働くことの魅力や仕事のやりがいを学ぶことを目的として実施しました。学生にとっては、県内就職の視点に加えて、就職後のキャリア形成についても理解を深める機会となりました。

● 企業訪問バスツアー

実地体験を通して、企業の特性や魅力を学びながら、仕事の意義や県内企業に対する理解を深めることを目的として実施しました。本事業は、高知県中小企業団体中央会との連携により実現できたものであり、これを機に大学と企業団体との有機的な連携に向けた取り組みが加速化することを期待しています。

● 合同業界研究セミナー

同じ「COC+参加大学でもある高知工科大学との共催」により、高知県に拠点を置く企業・団体を大学に招き、合同業界研究セミナーを実施しました。当日は、学生と企業人との新たな出会いが数多く創出され、業種・仕事への理解を深めながら進路選択を具体化していく貴重な機会となりました。

○ ガイダンス等一覧表(年間) 2018年度(平成30年度)

月	事業名
5月	学部別ガイダンス(専門職対象)
6月	学部別ガイダンス(専門職対象)
9月	企業訪問バスツアー 学部別ガイダンス(専門職対象)
11月	学部別ガイダンス
1月	学部別ガイダンス(専門職対象)
2月	合同業界研究セミナー

2. 中山間インターンシップ

県内の中山間地域の現状と抱えている課題を知り、体験をとおして中山間地域で働くことの魅力とやりがいを感じる機会とすることを目的に、各市町村及び教育委員会と連携し、以下のとおり実施しました。小・中学校での児童・生徒への学習支援はもとより、学校行事の準備や事務業務等を通して教師としての仕事への理解を深め、また地域の暮らしを体験しながら活動を進めることにより、地域と地域が一体となって教育に取り組む意義を知る機会となりました。

概要	実施場所	実施期間	参加学生数 (延べ)
小・中学校での学習支援(夏季)	津野町	8月27日～9月7日	19名
	安芸市	9月3日～9月14日	4名
	三原村	9月3日～9月7日	5名
小・中学校での学習支援(春季)	安芸市	2月21日～3月8日	8名
	津野町	2月25日～3月8日	17名



2 高知工科大学

【海外インターンシップ】

平成30年度の海外インターンシップでは6名の学生が、タイ2社、ベトナム1社、マレーシア1社、シンガポール1社の受入先で実習を行った。応募学生を書類・面接により厳選し、本件に本社を置く企業3社からの受け入れに対し、派遣学生は以下の1社1名にとどまった。

● 株式会社土佐電子

日本での就労を目指すベトナム人を対象に同社がベトナム ホーチミン市内に開校する日本語学校での講師補助を主たる業務として実習。社会貢献としても取り組まれるこの事業に携わることで、現地スタッフの定着率という経済発展を続ける外国への進出企業が抱える共通課題に対する好事例を本県企業から学ぶ機会となっている。

本学が国際交流支援施策として実施する他の語学・文化研修の一環として本事業を捉える学生からの応募が一定数居ることが例年の課題であったことから、今年度は学生の選考において、本人の専門性や実習への意欲、目的意識を明確に問うこととした。その結果、受入表明のあった県内企業2社に対して「該当者なし」との回答に至った。

ただ、本事業募集のための説明会および派遣学生による成果報告会には合わせて60名程度の学生が参加しており、グローバルに展開する県内企業を認識する機会として機能した。

【マネジメントチャレンジ】

平成30年度の地域共生概論2(マネジメントチャレンジ:以下「マネチャレ」)は、高知県の仁淀川町沢渡、大正町市場(中土佐町)の2箇所をフィールドとして活動を行った。参加者は、学生が8名、社会人が1名であった。講義は、第1講の関係づくり合宿(9/22-23)から始まり、第2講:企画書づくりを学ぶ(10/17)、第3講:計画づくりを学ぶ(10/31)、第4講:プロジェクトマネジメントを学ぶ(11/14)、第5講:チームマネジメントを学ぶ(11/28)の講義を受けながら、現地訪問・調査を行い、企画を策定・実施し、第6講の振り返り合宿&成果報告会(2/2-3)で総括を行った。

仁淀川町沢渡は土佐茶の有名な産地であるが、高齢化、過疎化によって茶農家は年々減少している。そのような中、仁淀川町出身で高知市に住んでいた岸本憲明氏が地元に戻り、お茶の栽培に取り組み、株式会社ビバ沢渡を設立、お茶とスイーツの茶農家の店「あすなる」を仁淀川町鷺ノ巣にオープンした。昨年には、高知市南御座にCHA CAFÉ ASUNAROもオープンし、話題となっている。この新しい地域活性化の取り組みに、仁淀川町チームの学生が、若者目線で協力し、メニュー・パンフレット・ホームページの作成を通して、販促の仕組みづくりなどの協力を行った。店舗での販売体験、本学国際交流会館でのテスト販売、さらに、パンフレットに有名な「茶大福」のクーポン券を付け、回収したデータからその効果の分析を行う等の活動を行った。

大正町市場(中土佐町)は、地域の近海の朝どれの鮮魚や干物等の海産物を現地ですぐ購入することが可能であり、そのまま刺身やお寿司等を食することができる有名な観光地となっている。高知県内外から沢山の観光客や地元民が集まり賑わう、地域活性化の成功事例として、全国的にもモデルケースとなっている。しかし現場では、漁師や経営者の高齢化、過疎化による担い手不足等、潜在的課題を抱えており、10年後も今のような活況が続いているのかとの不安の声も挙がっている。このような状況の中で、大正町市場チームは、現状課題の抽出と活性化への企画提案を行った。具体的には、大正町市場の各経営者、地元の住民・若者へのアンケート調査によって、市場への期待と課題を明らかにした。地域の関係者と「わかもの交流会」を2回開催し、

上述のアンケート調査結果を共有した上で、解決策を検討・提案することを試みた。

NPO法人いなかパイプの代表である佐々倉玲於氏には、全ての講義にご登壇いただくと同時に、プロジェクトの顧客とマネチャレチームとの良好な関係の構築・維持、各プロジェクトの進捗状況の適切な管理を行って頂いた。龍谷大学の川中大神先生には、関係づくり合宿において貴重なご指導を頂いた。両チームの活動とも、「顧客」である地域の住民から高い評価を頂いた。今年度のマネチャレもとても充実した講義となった。

一昨年度(平成28年度)のマネチャレの成果として、企画を成功させるためには、次のことが重要であることが明らかにされた。

1. 成功の必要条件: ビジョン(理想)を掲げ、他者を巻き込んで行くリーダーシップ
2. ビジョン(理想)正しい理解・構築のために必要なこと: 関係性の構築
3. 企画の位置付けの明確化: ビジョン(理想)を達成するための一つのプロジェクト
4. 覚悟を持つことの必要性和そのために必要なこと: 不安軽減とキャパシティ向上・発揮
5. 社会人メンバーの強み: 学生の成長を見守る温かいまなざし

昨年度(平成29年度)のマネチャレの成果として、学生が以下の点を実感できるようになった点が挙げられた。

1. プロジェクトメンバーと顧客との関係性構築: 地域には多くのニーズが存在することを肌で実感することによって、地域のニーズを生き活きと、かつ、複眼的に感じることができるようになった。
2. プロジェクトメンバー間の関係性構築: メンバーを信頼することの重要性和その方法を、自分の問題として捉えることができた。

今年度(平成30年度)のマネチャレにおいても、学生が、プロジェクトマネジメントの基礎理論が実践に必要であることを実感したことが大きな成果として挙げられる。具体的には、以下の点を実感した点が挙げられる。

1. Why-何のためにプロジェクトを行うのか-を突き詰めることの重要性
2. スポンサーシップ-顧客からの支援-の重要性
3. プロジェクトマネージャーの役割の重要性: メンバー並びに自分自身に与える効果
4. プロジェクト文化(例: メンバーが自由に物が言い合える雰囲気)の重要性
5. 成功できるプロジェクト計画立案の重要性
6. 適材適所の役割分担の重要性
7. メンバー間のコミュニケーションの有効性と効率性を向上するためのSNSの威力と活用
8. 異文化交流としての世代間交流

なお、これまでの成果に基づいた「マネチャレガイドブック(仮称)」を、2019年夏頃までに発刊する予定である。

【地域と学生とのマッチング活動について】

平成30年度も、香美市、香南市及び高知市の学校活動をサポートするために、地域の各学校と学生サポーターのマッチングを行った。平成30年度には、1年間の延べ人数で51名の学生を13校に送り、活動を行った。

各学校で学生が行ったサポート活動は、昨年同様

- 1) 課外の時間に学力を付けるための加力活動(高知県教委ではこのように命名しているが、小学校から高校まで教科と範囲はかなり多様である)
- 2) 授業の補助活動(実験や、授業準備等の補助および授業運営の補助など)
- 3) クラブや部活指導の補助活動
- 4) ネットワークや、ITによる教授活動の補助等々、多岐にわたる。今年度は、特に4項目目の活動に力を入れ、高知工科大学、香美市および高知県立山田高校とコラボし、プログラミング活動を香美市内の小中学校に行った。(後ろの写真資料参照。) とくに、大学院生が高校生を教師役に育て、高校生が小中学生に指導するなどの新規事業を開発し、実施した。

活動時間も、学校側が必要とする時間と学生の空き時間をマッチングするプログラムによって行い、今年度もこれまで同様スムーズに行えた。学校からの評価はかなり好評で、特にプログラミングは毎年改良しつつ、新しいドローンや子ども用のロボットなどで対応してきたので、次年度以降もさらなる要求に応えられるように改善しつつ対応していきたい。

高知県および各市の教育委員会が学校をサポートする学生を求める数は、年々増加しており、また必要な活動に交通費や一定の人件費を充てて対応する事例も増加している。高知工科大学ではこれまでボランティア、つまり無償で行う活動として位置づけてきたことから、近年公的な機関から予算が付いて、これらの諸活動に一定報酬を伴う事例と無償のボランティア事例が混在するようになってきた。

今後は、まずボランティアで一定の経験知を有した学生、あるいは対象学校が遠距離で一定の交通費や負担を伴う場合に、有償の活動をマッチングするようにプログラムのさらなる改良が求められている。次年度は、ぜひともこの点を改善し、さらに学校現場や、地域の要望に応えられるように努めたい。

2年後に、小学校にプログラミング教育導入が求められていることから、学校現場よりこの課題についての問い合わせが昨年度にも増して多くなっている。この点も、次年度以降さらに強化したい。



3 高知工業高等専門学校

① 県内企業研究会、県内企業見学バスツアー、企業説明会

平成30年度の活動として、本校のキャリア支援室及び地域連携センターが中心となり、(一社)高知県工業会様と連携し、以下の3つの活動を実施しました。

11月6日に「県内企業研究会」を実施しました。今回より、(一社)高知県情報産業協会様、(一社)高知県製紙工業会様、(一社)高知県建設業協会様のご協力を得、県内企業42社に参加いただき、第一体育館で盛大に行われました。1社当たりの面談者数の平均は18名に上り、学生の熱心さが伺われる研究会となりました。企業様からは、学生に高知県内企業の存在をアピールする良い機会であり継続開催を希望する言葉をいただいております。



12月18日に、「県内企業見学バスツアー」として、1年生(約160名)が4グループに分かれ県内企業を2社ずつ(計8団体)訪問しました。キャリア教育授業の中で訪問した各企業の内容を報告し合い、県内企業の魅力について理解を深めました。2年生は、11月に開催された、ものづくり総合技術展の見学を行いました。これらにより、学生が低学年次から地域と出会う機会が広がり、県内企業従事者や本校の先輩と交流を図ることで県内企業に対する知識や理解を深めるとともに、3年からのコース選択と将来の仕事の関連を考える機会となりました。



12月8日に進路研究セミナーを開催し、県内企業は21社に参加いただきました。たいへん盛況で、就職活動を控えた専攻科1年生、本科4年生を中心に多数の学生に加えて、休日にも関わらず、夏季休業中にインターンシップを希望している3年生や、希望コースの選択を控えた2年生の姿も多く見られました。



② 「高知高専うなづくプレゼンテーション(うなプレ)」を本校にて開催

「うなプレ」の目的は、これからの企業人、技術者に求められるプレゼンテーション能力を含むコミュニケーション能力を涵養し、そのスキルを学生が自ら磨くことを狙いとしております。また、地域へのまなざしを養い、問題を自ら発見・解決し、発信する力を身に付けることにより、地域社会に貢献できる人材を育成することを目指します。

第3回となる今回のテーマは、「第一次産業×先端エンジニアリング」とし、高知県を支える主要な産業の数多くの課題をIoT、AIなどの先端技術と組み合わせるアイデアを競い、予選を勝ち進んだ5チームによる本選が11月10日に本校にて行われました。国語、地理、社会科学などの授業を通じて課題の発見と解決、プレゼンの方法を学び、1・2年生の全学生が参加しました。今年度は、モノづくりに留まることなく、「モノを使ってどのようなコトを起こすか?」までをひとつのパッケージとした提案を期待し、期間中に、IoTに関する基礎講座や、外部講師を招いてのIoT講習会を開催いたしました。本選では、学生たちの柔軟な発想によるアイデアが披露され、審査員の方々から「楽しかった」「次年度もぜひ」というお言葉をいただきました。また、過去のうなプレから生まれたアイデアの実現化に向けて、調査・研究を継続的に行うプロジェクトも県内企業との連携によって進めています。



③ 「めざせ、地方創生推進士」パンフレットの配布

学生の地方創生推進士申請・取得を促すべく、パンフレットを作成し全学生に配布いたしました。



1 外部評価

事業のPDCAサイクルを効果的に実施するために設置された、外部評価委員会が平成30年6月18日（月）に開催されました。外部評価委員会は県内外の有識者4名で構成され、今回は平成29年度事業実績についての評価が行われました。評価方法は平成29年度の活動や評価項目（評価フレーム）を自己点検評価書として作成し、この自己点検評価書に基づき行われるとともに既存の評価項目（評価フレーム）についての意見等もいただく形で進められ、以下の講評をいただきました。

● 眞鍋委員長からの全体講評

- ① 全体的に中間評価のとおり、計画どおり進捗されているのではないかと考える。
- ② 県内就職率の向上に向けて以下3点の提案をいただきました。
 - ・ 県内企業との連携強化について、県との太いパイプを活かした取り組みを検討し実行する。
 - ・ 参加大学との連携強化について、県内就職率が減少している大学や目標達成している大学の分析を行い対応策を考える。
 - ・ 学生の活躍の場について、地方創生推進士の役割を活かし、企業とのマッチングの企画から全てを学生に実施させることで、成長に繋がり、地方創生推進士の活躍としてロールモデルになると考えられる。

● 全体講評をふまえて

地方創生推進士の活躍に期待するという全体講評の指摘をいただいたあと、高知商工会議所青年部と地方創生推進士の意見交換会がきっかけとなって、学生と経済団体若手経営者・高知市役所若手職員らとの交流会が生まれた。また、高知大学朝倉キャンパスそばに開設を予定する「企業と学生の交流カフェ」の相談を地方創生推進士が受けて、学生への浸透で協力をすることがあった。



● まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム外部評価委員会名簿

平成30年4月1日現在

機関名	役職	氏名
北九州市立大学	地域創生学群長	眞鍋 和博
株式会社クオリティ・オブ・ライフ	代表取締役	原 正紀
高知労働局	職業安定部長	渡辺 剛史
高知商工会議所	専務理事	杉本 雅敏

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

**平成30年度まち・ひと・しごと創生
高知イノベーションシステム報告書**

発行日：2019年3月

発行：国立大学法人高知大学 次世代地域創造センター
〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47
TEL 088-844-8293 FAX 088-844-8556

印刷：株式会社 高知新聞総合印刷

